

研修医奨励賞 中谷真大、河本マリナ	3
AOTrauma Fellowship 張 幸 勳	3
出張報告 スマトラ島医療支援 杉本健太郎	4
スーパースerviceプロジェクト 50 回記念 北村龍彦	6
禁煙指導 ツールグランプリ 優秀賞受賞	6
高次脳機能障害支援普及事業 支援拠点機関 和田恵美子	7
熱烈応援 中山修一、小原健稔	10
地域連携ガイド 2019 完成	10

～社会福祉法人ファミリーユ高知 理事会・評議員会の新体制へ～

【理事 6 名】 理事長 近森正幸、常務理事 寺田文彦、西岡由江、沼慶子、中澤清一、片岡保憲

【監事 2 名】 梶原和歌、小松俊也

【評議員 7 名】 議長 森下幸子、田頭千佳、鈴木孝典、玉里恵美子、畦地博子、北岡剛、前田和彦

センター長就任から一周年を迎えて

ソーシャル・インクルージョンの実現



高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡 由江

2008年4月から高知県より運営移管された身体障害者リハビリテーションセンターを「高知ハビリテーリングセンター」と改称し、事業開始して12年目を迎えます。

この10余年の経過のなかで、医療の進歩や社会経済の変化、人口の高齢化、慢性疾患患者の増加など、社会的ニーズの変化に対応し、当センターの機能も大きく変化してきました。

身体障害のみならず、知的障害、精神障害、難病、障害児と障害全体を視野に入れた機関として機能を再編し、なにより、ご利用者やご家族が障害や障壁に屈することなく、ご自身の人生をあきらめず、自分で決定し、責任もって生きる自律心を応援してきました。これもひとえに、障害者一人ひとりの希望や夢を積極的に支えてくださり、たくさんのネットワークを広げていただいた地域の方々と、さらに時代に即した組織作りを支えていただいた理事及び評議員の皆さまのおかげだと感謝しております。

新しい理事、評議員の体制となりますが、すべての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、ソーシャル・インクルージョンを実行できる組織へ変化していきたいと思っています。

にしおか よしえ

移築一周年を迎えて



しごと・生活サポートセンター
ウェーブ センター長 沼 慶子

昨年5月21日に北本町に移築し、名称もしごと・生活サポートセンターウェーブとして新たにスタートしてから早いもので1年が経過しました。6月の移築1周年祝賀会では、利用者やご家族、関係者の皆様からの温かい祝福も頂き、盛大に行うことができました。

年号が令和になったこれからは、新しいスタイルをTEAMウェーブで実現していくためにも、職員一人一人の考えや思想を大切に、職員が経営の中核として、時には主役に時には脇役として活躍できる機会が「普通にある」ことがとても重要です。ウェーブが人と社会を輝かせる活動ができるよう、様々な分野の専門家や地域の方々から学び、工夫し実現していけるよう努めてきたいと思っています。

常に熱意とやさしさをもって支えて下さっている理事、評議員の皆様は心より感謝し“人々が美しく心寄せ合う中で文化が生まれ育つ”令和の時代を私たちが楽しく生きていきたいと思っています。

ぬま けいこ





悩みがあってもお家で暮らそう

精神科認定看護師

近森病院総合心療センター外来 看護師長 山下 ちぐさ

生活をしていく上では、食事をし、睡眠をとり、清潔を保ち、日中活動をし、人付き合いをし、家事をし、安全を保ち…と、することや気をつけることがたくさんあります。そこ

へ精神的に不調をきたすと症状や薬との付き合いが生じる上、できている生活活動のどこかに支障が生じることも少なくありません。

生活への支障が大きくなると入院ということにもなりますが、以前は長期入院が当たり前だった精神科も、社会情勢や医療情勢、新薬の開発などで、短期入院へとシフトしています。入院になったとしても、入院時から退院後を見据え、当事者ができるだけ早く居るべきところに戻るようチームで支援しています。

総合心療センター外来では、通院中のご本人やご家族から、直接あるいは電話で相談を受けることが多くあります。病気や薬に関すること、

生活上の困りごと、職場や家庭内での人付き合い、感情のコントロールができない、死にたい、自傷行為をしてしまったなど相談内容は様々ですが、いつでも、ご本人やご家族の気持ちに寄り添うとともに、ご本人やご家族がどうしたいのか、どうありたいのか、自分で意思決定していただけるような支援を心がけています。

「患者さんがその人らしさを失うことなく社会の中でこころ豊かに前向きに生きていけるように全力で応援します」という総合心療センターの理念を念頭におきながら、地域生活を支えるべく日々の業務にあたっています。

やました ちぐさ

8月の歳時記

マツバボタン

診療支援部医事課

文書係 国沢 晴菜



真夏の強い日差しの中でも元気に咲くマツバボタン。線状の葉が松葉のようであり、花がボタンのように小さく美しいことから名付けられました。花色は赤、ピンク、白、黄、オレンジ、紫など、色鮮やかな夏の花です。

今年の夏はマツバボタンの花言葉でもある「無邪気」な心を忘れず、マツバボタンのように美しく可愛らしく元気に毎日を過ごしたいものです。

くにさわ はるな



よさこいチーム「ちかもり」

まもなく開演！ 10周年を熱く舞います



追手筋演舞場
声援お待ちしております

8月10日(土) 15:07
11日(日) 19:27

受賞報告

第111回日本消化器病学会
四国支部例会 研修医奨励賞初めての学会発表、
初めての奨励賞

初期研修医 中谷 真大

6月29日に香川で行われた四国消化器学会に行ってきました。

初めての学会で緊張しましたが、栄枝先生、指導医の梅下先生をはじめ、消化器の先生方の篤いご指導のおかげで無事に発表を終えることができ、奨励賞までいただくことができました。

この経験を生かして今後の研修生活を実のあるものにしていきたいです。

なかたに まさひろ

第114回日本循環器学会
中国・四国合同地方会 研修医奨励賞研修を始めて1年3カ月
初めての奨励賞

初期研修医 河本 マリナ

はやいもので、近森病院で研修を始めてから1年3カ月が経ちました。これまでに内科系外科系合わせて6回の学会発表の機会があり、今回はなんと研修医奨励賞をいただくことができました。

時間をかけてご指導くださった中岡洋子先生をはじめ、たくさんの先生方に少しでも恩返しができたかと思うと嬉しく思います。また多くの発表の機会をいただけたことにとっても感謝しています。今後とも元気に全力で研修させていただきますので、よろしくお願いします。

こうもと まりな

AO Trauma Fellowship (外傷に興味を持っている外科医のための留学研修制度)

AO Trauma Fellowship で
韓国から研修にきました！

Jae-Hoon Jang (張 宰勳)



韓国の釜山出身のジェフン・ジャンです。私は2014年から整形外科医として釜山国立大学病院の外傷センターで働いており、今回、AO Trauma Fellowship に選ばれ、近森病院の整形外科を訪れています。皆さんの親切さ、思いやりのおかげで、時間はあっという間に過ぎ去り、もう韓国に帰らなければなりません。

6週間の短期研修でしたが、外科的アプローチや技術だけでなく、患者さんへの治療やケアをどのように決定していくかといったことについても、多くのことを学びました。とても印象的だったのは、私の勤務している病院とは全く異なるチーム体

系だったことです。全員が集まる朝のカンファレンスで、担当医から症例報告があります。その後、上級医が、診断、治療法、手技について助言し、それだけでなく、治療の進め方までもサポートしていきます。これは、非常に有機的で緊密なチームワークだと思います。

そして、彼らは常に完璧な手術をするために最善を尽くしています。まるで自分の技能を信じて、納得できるまで念入りに仕事をする職人のようで、そういった、彼らの素晴らしい姿勢は、私がここで学んだ最大の美德だと思います。

すでに5週間以上が経過しており、

予定の研修期間は終わりに近づいています。衣笠先生を含め全ての医師が面倒を見てくれて、温かいおもてなしをしてくれました。彼らはいつても親切で、私にどんなことでも説明してくれ、家族の一員として気遣ってくれました。忘れられない思い出を持って日本を離れます。韓国に帰っても、彼らの仕事への取り組み方や高度な技術をもとに、より良い整形外科医になれるように頑張ります。

ここ、高知の近森病院整形外科の仲間を忘れず、彼らの将来の幸せを願っています。

【原文(英語)を翻訳しています】
ジェフン ジャン

インドネシアの熱帯雨林で医療支援



近森病院麻酔科
科長（部長代行） 杉本 健太郎

5月中旬に、インドネシア、スマトラ島で医療支援を行って来ましたので少し報告させていただきます。Bird Life International (BLI) という鳥類の保護と環境保護を目的とする英国に本部を持つ NGO 団体が、インドネシア、スマトラ島に東京都 23 区ほどの広さの熱帯雨林の森を保護し、鳥の自然な生活を護る活動をしています。同時に、その熱帯雨林に住む人々の健康も守る使命があるということで、その団体とコネクションを持つ森田潔顧問と共に、医療支援に行って来ました。

現地の家庭を訪問し 20 名を診療

メンバーは、森田顧問・小林求先生・東南杏香先生・僕の 4 人の医師と、BLI 日本支部から 2 人の計 6 名でした。医師はみな、岡山大学麻酔科の同門の先生です。

羽田からインドネシアの首都ジャカルタ、さらにジャカルタから 2 時間ほど国内線に乗ってジャンビとい



▲スマトラの熱帯雨林の森

う町まで飛び、さらに車で 3 時間ほど行ったところに BLI の所有する熱帯雨林の森がありました。途中から道は舗装されておらず、見渡す限りパームヤシのプランテーションが広がっていました。パームヤシからは良質の植物油が取れ、その地域の重要な産業になっています。

地域の住民にとっては、熱帯雨林の自然環境を護るよりも、パームヤ



▲森に散在する各家庭を車で訪問
シに植林してしまったほうが経済的には豊かになるということです。

現地では森に散在する各家庭を車で訪問し、20 名ほどの診療を行いました。その熱帯雨林の森には診療所が一つあり、常駐する看護師 2 名とともに各家庭を訪れました。

高床式の家では暮らしぶりは非常に貧しいですが、子供の数は多く、子供たちは明るい表情をしていました。現地スタッフに通訳してもらいながら、聴診器と携帯型エコーを用いて診察をしました。皮膚病・発熱・頭痛・腹痛・分娩後の不調・蜂窩織炎・咳・膝痛・高血圧など、いろいろな症状がありました。

**無医師地区で Ns2 名が
1000 人の医療を担う現状**

東京 23 区ほどの広さの森の中に

▼現地の家庭を訪問、20 名ほどを診療



▼ほとんどの家屋は高床式住居



は 1,000 人余りの住民が住み、医師はいなくて、診療所に常駐する看護師 2 名が森の住民の医療を担っています。

手術など高度な医療が必要な場合は 3 時間ほどかけて、ジャンビの病院まで救急車で運ぶそうです。そのような交通アクセスの悪い熱帯雨林の森での診療には限界がありますが、改善できることもあるはずですが、現地医師との連携も重要な課題です。BLI はそこに学校も作ったそうですが、子供たちはなかなか学校に来てくれないようです。衛生面での
次頁へ続く

前頁から続く



▲診療を行う東南杏香先生

課題もありそうでした。

多職種の協力で さらに深みのある支援を

森田顧問は今後もこの活動を続けていかれる予定で、年に3回ほどはインドネシアの熱帯雨林を訪れる予定です。

今回は麻酔科医4名という編成でしたが、内科系の先生のほうがこのような診療に長けていることは自明ですし、いろいろな科の先生に参加いただいたほうがレベルの高い医療が提供できます。



▲森田潔顧問

看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・保健師・歯科衛生士、そしてあらゆるジャンルの知識を幅広くお持ちなソーシャルワーカーや管理部の方々のご協力があれば、さらに深みのある支援につながります。少しでも興味を持たれた方は、麻酔科杉本までお気軽にお声かけ下さい。

最後に、忙しい日常業務のなかで、このような貴重な機会をあたえてくださった麻酔科スタッフ・手術室スタッフの皆様にご心より感謝します。ありがとうございました。

すぎもと けんたろう

第2回
近森会グループ学術集会

2019

8月31日(土) 13:00

今年、管理棟 3階で開催!! 17:00

今年、盛りだくさんの内容。認定・専門看護師の活動紹介ブースもあり！同僚や他部門の取組を聞いて brush up!! 理事長の特別講演も必聴！

同時開催!!

栄養補助
食品試食会

管理棟8階 食堂 12:00 ~



私の趣味

心と身体の軸

臨床検査部臨床検査技師 楮佐古 美奈



ヨガを始めて10年以上が経ちます。最初はダイエット目的で何となく始めたヨガですが、初めてのレッスンでぐっと心を掴まれ「たぶんおばあちゃんになってもずっとヨガを続けるだろうなあ」と一瞬でヨガに魅了された日のことを覚えていま



す。

ヨガを続けていくうちに物足りなさを感じ始め、よりアクティブなヨガを探して全国各地のヨガイベントに参加しました。そこで出会った大好きなヨガがふたつあります。ひとつはヨギックアーツ。ヨガと武術、そしてタイ式マッサージの要素を融合させたダイナミックかつしなやかなヨガで、身体の隅々まで効果を感じ心地よい疲労感もあり、心も身体も整えることができます。もうひとつはボートゥヨグ。日本生まれの新しいヨガであり、コントーション

の要素も含む前衛的なヨガです。絶対できない…と初めは心が折れかけていた奇抜なポーズも諦めなければ私でもできるんだと、少しずつ自分の成長を実感しています。

ヨガを通して出会った全国各地の仲間や、じっくり内観できる時間は私にとって貴重なものです。カッコいいポーズがとれるおばあちゃんを目指して地道に続けていこうと思います。興味を持たれた方はぜひお声がけください。 かじさこ みな



辰巳芳子先生 スープサービス・プロジェクト 50 回記念

「あなたのために」の気持ちを込めて

スープサービスプロジェクト責任者
近森病院外科部長 北村 龍彦



『あなたのためにーいのちを支えるスープ』を始め、多くの著書とスープ教室で、ご自身の料理を通して人生観を教えていらっしゃる辰巳先生直伝のスープサービスを近森病院で入院患者さんに提供し始めてから 50 回目を迎えました。

食担当のエームサービスなど、関係者全員がチームで支えてくれた賜物で感謝しています。

「あなたのために」の気持ちを込めて提供しております。辰巳先生の思いが皆様に伝われば幸いです。

ささやかなスープサービスですが、人生訓の根元でもある「あなたのため

きたむら たつひこ

今回は高齢になられ、高知に足を運ぶことはかないませんでした。50 回記念のことをお伝えすると喜んでおられました。スープ提供が継続できているのは近森理事長はじめ高知パレスホテルの吉村社長やシェフ、近森病院の臨床栄養部、看護部、給



▲記念事業として、鎌倉での特訓や記念講演会の写真、50 回のスープ提供内容や、栄養学的組成分析などをパネル展示しました。

◀著書『仕込みもの』の中にある梅干しのレシピ通りに関係者で梅干しを仕込み、いつの日かこの梅干しを利用したスープを提供しようと計画しています。

禁煙指導ツールグランプリ 安全衛生委員会刊の「禁煙通信」が優秀賞



「日本高血圧学会」が公募する禁煙指導ツールグランプリに、毎月発行の「禁煙通信」を応募しました。その結果、パンフレット・スライド部門で「優秀賞」を受賞することができました！

これからも「禁煙通信」をよろしく願います！
安全衛生委員会
健康管理センター 白石知佳

近森病院附属看護学校
オープンキャンパス2019

8/8 8/3 9/7

10:00~ (受付 9:30~)

高校生・社会人の方大歓迎です！

体験して近づく！夢の実現！

- 学校紹介・受験ガイダンス
- 看護技術体験・ユニフォーム試着
- 最新設備もご紹介！キャンパス見学ツアー
- 在校生と一緒にランチタイム

近森病院附属看護学校
TEL 088-8717582

近森リハビリテーション病院からお知らせ

高次脳機能障害支援普及事業 支援拠点機関ができました



近森リハビリテーション病院

院長 和田 恵美子

高知県から5月27日付けで高次脳機能障害支援普及事業支援拠点をNPO法人靑い空が委託され、近森リハビリテーション病院も靑い空と協同して参加しています。

高次脳機能障害とは頭部外傷、脳血管障害などによる脳の損傷の後遺症として、ものが覚えられない、気が散りやすい、当たり前ができない、怒りっぽい、やる気がでないなどのさまざまな症状がおき、そのために生活に困難さが生じることをいいます。

麻痺など外からみてわかりやすい障害がのこらなかつたり、簡単な認知症のスクリーニング検査では引っかけられなかつたりするために周りの

方に理解されにくく、当事者やご家族で不安や悩みを抱え込んでいることも少なくありません。

病院1階駐車場の南入り口横に事務所を開設し、靑い空から支援コーディネーター、当院から臨床心理士が参加しています。お気軽にご相談ください。

(連絡先：090-6535-6370)

わだ えみこ



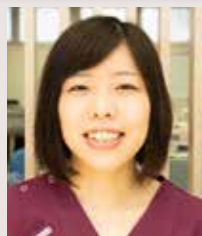
▲左から津野支援員、和田心理士

リレー エッセイ

高知に来て一年が経ちました

近森病院救命救急センター (ER)

救急救命士 後藤 優歌



去年の四月、近森病院に就職すると同時に岡山から高知に移り一人暮らしを始めました。院内の救急救命士として働き始めて一年経ち、ようやく今の環境に慣れたように思います。高知の街は気候も良く住みやすい場所だと住み始めた当初から思っていました。ご飯が美味しいです！

仕事に関しては、所属部署であるERの雰囲気もとても良く業務内容もやりがいのあるものばかりで、とてもいい環境で仕事をさせていただいています。入職して業務を行っていく中で、救命士の専門学校で勉強してきたこと以上に医療の知識が必要だということを知り、また看護についても深く関わっていく必要があることを学びました。特に看護については入職するまでほとんど関わったことがなかったため、看護師さん、救

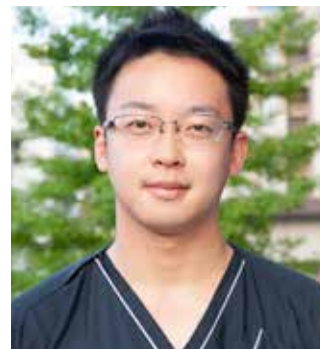
命士の先輩に一から教えてもらいながら学ばせていただいています。

業務以外の取り組みとして、ICLSのインストラクターや新人研修でBLSを教える側として参加させていただいているのですが、人に物事を教えることの難しさを知りました。自分ではわかっているつもりでも教えるとなるとより勉強していなければ理解してもらえないことに気づき、何をしても日々勉強する必要があったと感じました。同時に人と関わる機会が増え、違う部署の方にも声を掛けていただく機会が増えたように思います。これからも色々な事に積極的に行動することを心掛け、頑張りたいです！

ごとう ゆうか

ハッスル研修医

理想の医師



初期研修医 三枝 寛理

こんにちは。神奈川県生まれ神奈川県育ちで、2019年4月から高知県に来ました。幼少期に空手、中学高校はバスケットボール、大学ではラグビーをしており、体力には自信があります。

近森病院で研修を始めて、早くも3カ月もの時間が経ちました。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリなど様々な職種の方々と一緒に仕事をすることができ、恵まれた環境にいることへの感謝とやりがいを日々感じています。

私の理想の医師は、相手の気持ちに立って物事を考えられ、実際に行動ができる医師です。

日々業務をする中で忙しい時には、余裕がないことも多々ありますが、小さな思いやりを大切にしていきたいと思います。

周りの方々から信頼されるように、一つ一つの行動に責任を持って行動していきます。ご迷惑をおかけするとは思いますが、日々成長できるように努力しますので、今後ともよろしくお願いします。

さえぐさ ひろよし

日本胆道学会認定指導医制度 「近森病院」指導施設に認定



ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど



中山 修一

なかやま しゅういち①総合診療科科長②高知県高知市③高知医科大学（現高知大学）④患者さんひとり一人に最適な医療が提供できるように、皆様と一緒に頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

人の動き 敬称略

おめでとう

職員対象

第 95 回

チカモリ・シネマクラブ

2019年6月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,385 人
新入院患者数	949 人
退院患者数	921 人

近森病院（急性期）

平均在院日数	12.23 日
地域医療支援病院紹介率	74.74 %
地域医療支援病院逆紹介率	270.79 %
救急車搬入件数	546 件
うち入院件数	275 件
手術件数	428 件
うち手術室実施	287 件
うち全身麻酔件数	191 件

● 2019年6月 県外出張件数 ●
件数 59 件 延べ人数 123 名

訂正とお詫び

「ひろっぱ」396号7月の5面「心不全パンデミックに備えて」の会場写真を間違えておりました。お詫びし訂正します。

編集室通信

平成から令和へと変わってもうすぐ3カ月になりますが、平成生まれの娘が小学生になっていることと平成の時代に家族が夏祭りに獲ってきた金魚が大きくなっていることが少しずつ時代が変わってきているなど個人的に実感していることです。令和になって自分のお腹回り以外が成長することを願うばかりです。

経験貯金をコツコツ増やします

▼本館最上階 ME (臨床工学) 室で、点滴に使う「シリンジ (注射器) ポンプ」の修理中



「専任はボクに！」

人工透析や人工心肺の装置が故障すると、即、生命維持に影響を及ぼす。それゆえ、その保守管理の大切さも怖さも身にしみているのが、「専属」になって丸2年が過ぎた哲さんだろ。

臨床工学技士であっても、患者さんとのコミュニケーションが大事だからと、もともとは技士五人が輪番で兼任担当していた保守管理。しかし、この道35年、ベテラン下西忠夫さんの本年10月の定年を控え、技士の独り立ちが喫緊の課題でもある。深田和生技士長を交えた話し合いで、「専任はボクに！」と元気に手を挙げたのが哲さんだった。

「経験貯金が増える感じが好きです」

下西主任の関わる医療機器全般の種類の広さは想像がつかないし、関係する職種もまだ全貌が見えない現状ながら、「自分の視野に収まる範囲から、確実に詰めていくのが、当面の目標」と、技士歴10年、技士全般の業務はそこそこ見えているようでも、謙虚な決意を新たにする。

「進路指導の先生に、臨床工学技士になれる学校があると勧められて、あまり考えず従ったんです。いま思えば、安易で恥ずかしいんですけど…(笑)」。そういう意味では積極性があったとはいえ、高校時代だが、技士チームの一員を務めるうちに、専任へ手を上げるようなやる気を発揮する人になった。

コツコツやれば、「経験貯金」が着実

に増えるみたいな感じが、自分の性格には合うようです」と、哲さん。

平野・深田両技士長が口を揃えて、「とにかく真面目。堅実。計画的に仕事を進められる」と太鼓判を押すのにも納得させられる。「下西主任の深さにも広さにも、そう簡単には追いつけません」と言いつつも、精進の手応えをしっかりと掴んでいるようで、保守部門の奥の深さにやり甲斐を見い出せてもいるようだ。

相手を想う想像力

専門学校時代、実習で近森透析室に通った折には、全身の血液入れ替えに仕事のごとく通う患者さんの苦勞に身がつかまされ、涙が出そうになったと、目が潤みそう。

腸炎をこじらせ、自分が緊急搬送され入院したとき、試食ではあんなに美味しいと思った病院給食に、味がないのを感じ、「入院患者さんって、こんなたいへんな思いをしゆうんや」と、改めて、その苦痛に気づき、遅ればせながら自分の日頃の健康に感謝した。さらに自分が弱っているときお世話になった皆様への感謝はひとしおだとか。

ものごとへの捉え方に関しては、「根がネガティブ。色々想定して、最悪を考えちゃったら、それ以上は悪くはならんやろーと考えるタイプ」だとか。が、その「色々を想定する力」が相手を想う想像力にもつながっているのだろう。

無意識にバランスをとって、外へ外へ

趣味は、妻や子どもたちの都合に合わせているが、アウトドア系が多くなっている。基本ネガティブなので、どうしても趣味くらいは、内向きではなく、外に向かいたいと、「無意識にバランスを取っているのではないのでしょうか…」と自己分析。

今年の初めにテレビで暖炉を見たのがきっかけだったか、火の温もりに気づき、「焚き火をやろう！」と思いつ

▼入院中もお世話に！後輩の小川遵さんと



いた。早速、専用の器具を買い、家族を誘って、実家の近くにある広場で、ときどき火を眺めて癒やされている。

堅実なイクメンパパ

とはいえ、いちばんの癒やしはやっぱり子どもたち。同じように仕事を持つ妻が、主な家事を済ませる間に、「できることをボクがするのは当たり前です」。で、例えば夕飯の準備の時間には、二人の子どものお風呂当番は哲さん。週に二日の遅出の日にはできないのだから、居るときぐらいは育児も家事も、動きを惜しまない。

一人目の男の子が生後数カ月から夕陽を眺めるのが大好きだったことに因み、二人目の男の子にゆうひとと名付けた。だからか子どもたちも赤い火が大好きで、焚き火にも機嫌よく付き合ってくれ、バーベキュー付きだと、なお楽しんでもらえて、家族円満、大満足。

しっかりお肉を食べたくなったら、親の家に行って食べさせてもらっているらしいが、普段は野菜中心という、やはり堅実そのもののパパでもある。

さらに、年に一、二度の家族孝行は、父親の実家、幡多郡大正町の下津井温泉の西村旅館へ。百歳近いおばあちゃんは今も元気。「山の水がやっぱりいいのかなあ…」。水の良さをまさしく肌で感じている。

▼曾孫と曾祖母



「乞! 熱烈応援」

出戻り内科医の恩返し?

新たなステップ



近森病院総合診療科
科長 中山 修一

私は2004年から3年間近森病院に勤めさせて頂きました。研修医2年目の時で、いろんな方々の温かく熱い指導の下、何とかいっぱしの内科医にさせていただきました。その後大学病院で、内分泌、糖尿病、リウマチ・膠原病といった分野を学んできました。今回近森病院に再び勤務させて頂くにあたり、自分の得意分野を近森病院に還元できればと思っています。 なかやま しゅういち



診療支援部システム管理室
室長補佐 小原 健稔

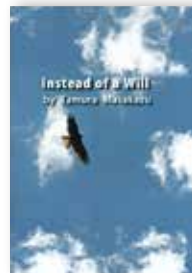
7月よりシステム管理室に入職いたしました。いままでは金融機関のシステム部門にて業務案件プロジェクト管理を行ってまいりました。新しい職場で新しい業態にて勤務させていただくこととなり、身が引き締まる思いです。

勉強させていただくことが多いと思いますが、よろしくお願い致します。

おはら たけとし

「全部」英語で

精神科の田村雅一先生
『遺言の代わりに』 英語版を出版



A4 版
72 頁

主治医の浜重内科部長はじめ、医療チームの皆さまや同僚スタッフのおかげで、体調ほぼほぼ復活の田村先生。周りのお勧めもあり、今度は英語の本を出版されました。

が、脳トレに活用するためにはやはり、英語だけよりも日本語も載った「対訳版」が必要です。そこで、垣根を低くして英語を勉強したい皆さんや、脳トレには英語を活用したいと考える皆さんのために、ただいま、『対訳版・遺言の代わりに』を制作中です。乞うご期待。

「近森病院地域医療連携ガイド2019」が完成しました

近森病院は地域の医療機関と連携して診療を行っております。各診療科の体制や専門性を知っていただくため、毎年本誌を県内の関係機関へ配布しています。

父の日サプライズの瞬間を激写

何度も読みました。嬉しいです。プレゼントはBMWのミニカーでした。僕の大好きなものを知ってくれているんです。

※詳しくは先月7月号掲載の「父の日サプライズ」をご覧ください。

お弁当拝見 74 いただきます、ごちそうさま

診療支援部医事課
(地域医療連携センター)
主任 北川 真也

家庭を持つまでは、夫婦共働きの生活を正直当たり前のように想像していましたが、限られた時間の中で誰かのために食事をつくることは、とてつもなく大変だと理解した今で



は、目覚めた頃には既に出来上がっているお弁当を見る度に、妻や昔の母がまるで超人のように思えます。

せめてこのお弁当を残さずいただいて仕事に励むことと、家に帰った



らごちそうさまと伝えることくらいは、日々忘れずにいたいです。

きたがわ しんや